

平成26年8月11日

改革クラブ

代表 亀田 英雄 様

八代市議会改革クラブ行政視察復命書

* 観察期日 平成26年7月23日(水)～25日(金)

* 観察場所 京丹後市 公共交通再生の取り組みについて

豊岡市(城崎支所) 観光資源を生かしたまちづくりについて

大阪市 大阪市教育振興基本計画について

参加者 亀田 英雄



中山 諭扶哉



堀 徹男



矢本 善彦



幸村 香代子



会派合同管外行政調査所見

改革クラブ 龜田英雄

◆視察日：平成26年7月23日(水)

◆視察先：京都府京丹後市

◆調査項目：公共交通再生の取り組みについて

《所感》

議会報告会において苦情が多い、バス・乗合タクシーの公共交通についてと言う事であつたので興味深く訪問させてもらったものであったが、担当職員のエネルギーに圧倒されたものとなつた。視察に行けばいろんな方に会うが、また良い職員に出会うことができたと思った。2時間半という視察の時間が用意してあり、どうなるものかと心配したものであったが、飽きることなく、もちろん眠気なども襲うことなくしっかりと話を聞き、有意義な時間となつた。

大方の自治体は増大する公共交通に対する補助金について取り組みを進める時、国交省の思いもあり、路線バスを削減し、乗合タクシーを導入したものであったが、ここは「人が乗って楽しいバスになれば良い」ということで、補助金削減ありきでなく、活きた補助金にしようということが特筆されるべき点である。

多くの自治体は、削減した補助金と引き換えに公共交通の利便性・信頼・信用性の一部を失ったように思われるが、この取り組みは、補助金を削減しながらも利用者を倍以上増やし、一律の利用料金ながらも運賃収入を増やした。利用者から愛用されており、周辺市町村へ波及している。なにより利用者の立場・視点に立ち、バス停の増設、増便、鉄道との連絡強化、フリー乗降、時刻表の作成・配布、等等様々な施策が展開されているのが良いと感じた。乗り換えの要領が解らないのに、現場での案内をしようともしなかった八代市とは大きなちがいである。

説明者は成功するか分からなかつたという話であったが、どうやらそうでもないようである。しっかりとした調査のうえでの決断であったように思われる。

綿密な調査を行い、主張し、実際成功するということは實に素晴らしいことである。

行政の仕事とはどのようにあるべきか、立位置はどこにおかなければいけないのか、市民の福祉の向上のために使命感・責任感をもてないのでないのか、市民が喜ばなければいくら経費を削減しても市民サービスとはなり得ない。そんな当たり前の事が当たり前に出来ないのはなぜか、補助金の在り方とはこのようにあるべきものではないか。

様々なことを考えさせられる視察となつた。今後八代市においてもしっかりと話をしていくたい。

◆視察日：平成26年7月24日(木)

◆視察先：兵庫県豊岡市

◆調査項目：観光資源を生かしたまちづくりについて

《所感》

いろんな意味で有名になった城崎温泉を訪問したものであるが、そんなことは微塵も感じることなく良いところであった。

開湯1300年という事で、日奈久温泉に活かせるものはないかと思って訪問したものであ

ったが、ネットを利用した広報活動、城崎温泉全体を一つのホテルという考え方をして、浴衣を着ながら外湯をめぐること等があった。なにより見習いたいのは「共存共栄の精神」であった。昔、泉源でもめたことがあり、そうならないように温泉を大事にし、守っていこうということであるとのことであるが、何かというと反対の方向に行きがちであるのが常であるのにこの精神が長く受け継がれてきているのは大したことである。この事がこの地の発展の礎になっているように感じた。

夜に10分ではあるが一ヶ月間、平日に花火を上げているのも一つの手であると感じた。ソフト事業に使えるようになった過疎債を利用したことであるが、結果として入湯税が1億からこえると言う話は特筆ものである。

説明は城崎支所で伺った。「コウノトリと共にいきる」「コウノトリ悠然と舞うふるさと」との口ゴにある通り、コウノトリが有名なところである。

説明者の肩書は、「環境経済部 大交流課」とあった。他では聞かない名称である。

環境を整備することが経済を回すことに繋がるという意味があるそうであるが、この地を流れる円山川下流域が「ラムサール条約湿地」であり、周辺の海岸は「山陰海岸ジオパーク」となっており、自然の観光資源が豊富である。情報発信もあり、知つてもらうと言う事での仕掛けは見習いたい。

◆視察日：平成26年7月24日(木)

◆視察先：大阪府大阪市

◆調査項目：大阪市教育振興基本計画について
《所感》

今何かと物議を醸し出している橋本市長の大坂市。どのような話が聞けるものかと思いきや、説明者は早口で、発音が明瞭ではなく聞き取りにくく、肝心の部分には答えがなくモヤモヤ感が残った。

大阪の子供たちの学業の成績が良くないということで橋本市長の就任後、計画の改定がなされたとの事であったが、政治が教育にどこまで介入するものか、その様なことが共通認識として図られないままに、「教育改革」という形で進められることには違和感が残った。

橋本市長になって、教育に予算が付くようになったとの事であったが、全体の概要の話にもならず、消化不良であった。

校長に権限を持たせるとしているが、自らが進めた公募による校長の選任は実績を上げるに至っておらず、その効果は未知数であるが、学校の運営に独創性を持たせる事は悪いことばかりではないとも感じた。

会派、改革クラブ視察報告

中山 諭扶哉

平成 26 年 7 月 23 日 (水)

京都府京丹後市

調査事項：公共交通再生の取り組みについて

京丹後市は 11 年前、6 町が合併している。合併前はそれぞれ各自に交通状況が異なつており、合併により公共交通の統一化、合理化が行われている。平成 26 年 7 月 20 日、舞鶴から福井方面への高速道路が開通し、従来の半分の移動時間となつたということで、当時から公共交通も高速道路も同時に発展させたいとの構想があった。地域の高齢化率が 32% と、八代市より高い数値となっており、公共交通の重要性が求められている。また、昭和 63 年に JR の廃線が決定し平成 2 年より第三セクターで鉄道を存続していることも八代市と共にしている。ピーク時からの利用者数の推移は、鉄道が 2/3 、バスは 1/2 と減少しており、「乗って守ろう」的な利用促進策は効果がなく、危機意識が相当あつたようである。

京丹後市の取り組みの特徴はコミュニティバスではなく、路線バスに価値を見出し、そこに特化したことである。試算を行い、最終的に 200 円で乗客が 2 倍となれば財政支出を抑えられると判断し、平成 18 年に開始した。その結果利用客が増加し、業者への補助金を抑制することができたということである。鉄道に関しても同様の施策を行い、成果を上げている。重要なのは、失敗を恐れずチャレンジ精神で改革したことである。首長を筆頭に理解ある上司のもとでモチベーションを上げ、「成功すれば皆納得する」を合言葉に努力された結果である。八代市もおれんじ鉄道やバス路線による影響が大きいので、参考にする必要があり、メスを入れなければ存続自体が危うくなる。変革を率先する必要がある。

平成 26 年 7 月 24 日 (木)

兵庫県豊岡市（城崎支所）

調査事項：観光資源を生かしたまちづくりについて

平成 17 年 9 月 1 日、1 市 5 町が合併し、豊岡市が構成されている。観光の中心は、最近何かと話題である城崎温泉である。平成 25 年度は入込み客数、宿泊者数ともに増加している、これまでには他観光地同様に微減していたということで、大変興味が湧いた。最盛期は 100 件を超えていたという旅館であるが、現在でも 80 件ほど残っており、賑わいは変わらないようである。一方地元日奈久温泉は最盛期 40 件ほど、現在は 10 数件となり、格差は大きい。宿泊したのは平日の木曜であったが、浴衣姿の観光客があふれ、花火が打ちあがり、昔の地元を見ているようであった。花火は 7/21~8/24 の平日のみ、毎日打ち上げら

れ、1,560万円全額県補助で行われている。賑わいの維持は、世代交代がうまく進んでいることが大きいようである。様々なアイディアが生まれ、日本人のみならず外国人の宿泊が多くなっており、その主体は団体客でなく個人客ということであり、東南アジアの富裕層の獲得が大きいということであった。また、日奈久同様、集中配管で共存共栄を図っている。また、景観条例により貫流する大谷川を中心に景観を崩さないようにしている。駅を降り、旅館まで車で5分ほどの距離があったが、バスを各自で所持するのではなく、旅館組合で配車していることは興味深く、渋滞の緩和になっており、一石二鳥であると感じた。日奈久温泉の存続・発展は次世代にかかっていることを強く感じる視察であった。

平成26年7月24日(木)

大阪府大阪市

調査事項：大阪市教育振興基本計画について

近年取りざたされてきた大阪市の学力低下問題があり、教育の改革が大きく推進されている。教育においての閉塞感からの脱却をめざし、市と教育委員会の立ち位置を見直し、すみわけと役割分担を通じて、きめ細かいサポートにより地域で子供を育て、未来の地域の発展につなげていくことが求められ、実践している。興味をひかれたのは校長が予算・人事面で一定の権限をもち、学校をマネジメントしていくことである。校長のリーダーシップがそのまま学校の特色につながっていくということで、今まで以上に資質や能力が問われていくことになる。現場の改革も進んでおり、ICT活用の取り組み、小中学校へ空調機の導入、土曜事業の実施、通知表改革、副校長制、教員のFA制など目を見張る内容であった。話題となった校長の公募に関しては平成24年で17名、平成25年で12名、合計29名となっている。

改革内容は

- 1、カリキュラム改革
- 2、グローバル化改革
- 3、マネジメント改革
- 4、ガバナンス改革
- 5、学校サポート改革

ということで、今後より開かれた教育がなされていくことと思う。八代市においては、受け入れがたいことが予想される。改革の参考として良い点、悪い点が見出されることと思うので、状況を見て取り入れていくのが良いのではと感じた次第である。

会派合同 管外行政視察所見

改革クラブ 代表 龜田 英雄 様

【 堀 徹男 】

◆視 察 日：平成26年7月23日（水）

◆視 察 先：京都府京丹後市

◆調査項目：公共交通再生の取組みについて

1・200円バスの導入について

2・日本一の赤字鉄道再生プロジェクト

(1) 導入の経緯 京丹後市も6町の合併により誕生しその其々に町営バスが運行されていた。合併に伴い路線を整理。赤字（全て）路線に対する行政からの補助金は今後も増額の一途をたどるのは明らかであった。これは本市においても同様の事が言えると思う。そこで、「結果として、補助金を支出するのなら」と前向きな支出のやり方を考えた。もともと地理的特性として集落が集約されていて路線の特定がしやすかった、という背景も一つの要因として挙げられた。担当課だけではなく庁内上げてプロジェクトチームを作り取り組む。行政は保護者に周知する手段を持っているので主な客層の通学する高校生へのアプローチに活用した。これは本市においても有効な手段である。

動向調査にアンケートを使ったがその設問には工夫を凝らした。求める結果が出るような方向へ誘導した。（本人談）さまざまなアンケートが実施されているが、結果が信用できるかの見極めが重要だと認識した。 行政からの補助でバスを運行するに当たり、まず当事者のバス会社の反対は無かったか？との質問には「当初、会社側は半信半疑であった」そうである。また認可を出す運輸局も同様で「失敗したらどう責任をとるのか？」とこれもまた足かせとなった。があきらめずに「ダメな根拠は何ですか？」と問うと、「無い」と回答され、ここにも役所の体質が見て取れる。（のちに成功したと見るや、「補助金を使って活性化してください」と手のひらを返してきたそうである）

他、タクシー業界との関係も、バス利用によって需要減が心配されたがえってタクシー利用者の（主に観光客）利用が増え、住みわけがうまくいったとのことである。

導入の効果と市民の評価であるが、バス利用者が増えたことにより、補助金は減った。ということである。結果として『補助金のあり方』に回帰する。「どうせ赤字補てんで支出するのなら、その予測赤字分を「架空予算」に見立て事業化する、という逆転の発想である。この行政ではなかなか生まれない発想を可能にしたのは11年も異動することなく担当する職員の存在であろう。利点としては「年次経過が把握できている。」ことが挙げられるが、このことについては是非であろう。総括として、結局は熱心に取組む（アイデアを出す）職員の存在と、実行に移すトップの判断力、ビジネス感覚であろう。鉄道についても同じような取組みで一定の成果があがっていた。特筆すべきは、「大學」と「コンサル」は介在させていない、という点であった。

これは、予算削減はなにより自分たちの力で解決するということであり、安易なコンサル委託は検証していくべきであろう。

◆視察日：平成26年7月24日（木）

◆視察先：兵庫県豊岡市

◆調査項目：観光資源を活かしたまちづくりについて

(1) 取組みの概要及び特色 (2) 取組みの効果と市民の評価 (3) 今後の課題

(1) 担当部署の名称からユニークである。「環境経済部大交流課」という。環境を改良すると経済につながるという意味だそうで、市外からのお客さんは「大交流」である。「名は体を現す」というが、ネーミングからして意気込みが感じられて面白い。豊岡市も6市町が合併した自治体であり、旧自治体毎に「観光協会」が存在している。その観光協会もそれぞれの持つ観光資源の差から温度差があるよう受け取れる。その中から今回主にお話を伺ったのは、城崎温泉である。もっとも宿泊客が多い城崎温泉はコンセプトに「共存共栄」（独り占めしない）を掲げ城崎温泉全体で「おもてなし」を実現されている。事実、城崎温泉駅の改札口を出ると迎えのバスとコンシェルジュが出迎えてくれる。このバスは旅館組合が運営し、各旅館が持ち回りで運行しているとのこと。本市の日奈久温泉街も駅から歩くには少々距離があり、年配のお客さんには歓迎されそうにもない。ぜひこのような仕組みを旅館組合などで作れれば自前の経費も少なくて済むだろうが。また「女将の会」「若旦那の会」などが活性化に向け活発に活動しているとのこと。平日は毎日（夏場限定）花火を打上げる（補助金事業）などのイベントや浴衣でそぞろ歩ける雰囲気のまちづくりなど賑わいを見せるところは、それなりの努力をされているようだ。

(2) さて、「豊岡市は活気のある町と思うか？」のアンケートに対し、市全体では「思う」が15%に対し、城崎地域では57%と活気があるところには反響がある。本市でも一度実施してみてはと思う。意外と簡単なアンケートの率直な結果が今後の運営の参考の一助になるかも知れない。

(3) 「観光施策を経験と勘に頼っていないか？」とい観点から外部の視点を取り入れている。民間からの人材を受け入れているそうで、日立と楽天からとのこと。情報分析や企画立案に役に立っている。また“コンサル”を導入しているのか？の問い合わせには「リクルート」を入れているそうで、旅行専門誌や代理店などのコネクションを持つ企業なら双赢双赢でもあり、これはこれでうまくコンサルを活用しているパターンであろう。さて財源の件については「入湯税」が1億1千万円/年間あり、潤沢といえるであろう。一般財源を持ち出すことなく、上手く回転させ次の投資に回せているとのこと。今後は海外戦略の推進にされることである。本市にも良質な温泉と新鮮な食材の調達という観光資源があるがここ何十年も上手く活用されているようでは無い。投資が雇用と納税に結び付くように何とか活性化する策を生み出さなければならないとの所管である。

◆視察日：平成26年7月24日（木）

◆視察先：大阪府大阪市

◆調査項目：大阪市教育振興基本計画について

(1) 計画策定の経緯 (2) 概要及び特色 (3) 効果と市民の評価 (4) 今後の課題

(1) 「大阪市教育行政基本条例」及び「大阪市立学校活性化条例に基づく平成14年と23年の計画の見直しを行ったもの。

(2) 首長の意向が色濃く反映されたもので、今般改正がおこなわれる「総合教育会議」の先取り版、といった体をしている。条文の中にも「市長は」「市長は」と繰り返し出てくるが、行政トップが教育委員会に政治的干渉を挟む余地があるのは、いささか疑問が残る。改革の方向性は校長に（公募制で民間からの導入も図っている）予算・人事面の一定の権限を持たせマネジメント出来るようにした。予算が付いた（増えたので）現場の評価はおおむね好評とのこと。一方では学校事務の仕事が増えたということである。カリキュラム改革ではICTを導入し（財源は一般会計から5億円）、小中一貫教育を推進し（学校統廃合の際をチャンス？としている）土曜授業を防災教育などの時間にあてるなどを行う。また中学校の給食化を進める（弁当持参であった）などかなりの投資を行うとのことである。予算配分がこれだけ教育に回されるのは、これも首長の意向次第で橋本市長の意気込みの表れと言えよう。マネジメント改革では校長のサポートとして区長に権限を委ね教育委員会担当副理事として兼任させている。教育委員会で出来ない部分をサポートさせている。ガバナンス改革では「学校協議会」を設置し区長の推薦を受けた保護者や地域住民の意向を反映させ（最終決定権は校長にある）学校運営を進めることとしている。特筆すべきは「市立幼稚園の民営化」である。市立幼稚園の民営化が可能かの質問には納得いく回答が得られなかつたが、「幼稚園」需要が都市部と地方では全く違うので参考にはならなかつたが・・・。学校サポート改革では「桜ノ宮高校の事件」をモデルにいじめ（これは教師による暴力事件であったが）問題に毅然とした対応を執るよう盛り込まれた。また全職員にパソコンの配備が25年1月に完了し（1万6千人の職員に配備するのには相当の予算が必要だったので時間がかかった）公務の効率化を図ることのこと。

(3) 市民の評価はまだこれからだが、現場の声はおおむね好評であるということだった。

(4) 今後は首長が交代して意向が変わっても施策が維持できるかどうかに注目したい。以上列記したように、この改革だけでも相当な予算を必要としているからである。人事権始め、権限を持つ政令市と本市では単純に比較や真似はできないが、取り入れ可能な施策を研究し本市の教育課題に反映させていきたい。

会派合同管外行政視察 報告書 改革クラブ 矢本善彦

日程：平成26年7月23日（水）

視察先：京都府京丹後市

調査事項：公共交通再生の取り組みについて

＜所感＞全国の地方都市と同様に、人口減少、高齢化および自動車の普及を受け、公共交通の利用者は減少しているのが現状である。京丹後市における行政と事業者との協働による上限200円バスの導入に取り組まれている。

当市は、バス事業者との綿密な現状を分析され共同作業により、市民、利用者へ積極的な広報活動を行って、乗合バスを再生している。また、京丹後市および地元乗合バス事業者の取り組みは、単なる公共交通対策の枠を超えて、教育、福祉、観光施策等への好結果も発揮しているのに感銘し、当市の取り組みを参考にしたい。現在、本市も地域公共交通調査事業としてアンケート調査を実施している。（1,000万円）

平成25年度 バス利用者数 656,880人

市補助 バス運行費補助金額1億4,600万円

日時：平成26年7月24日（木）

視察先：兵庫県豊岡市城崎支所

調査事項：観光資源を生かしたまちづくりについて

<所感>世界中から人々が集まり賑わい活気に溢れている豊岡市を実現するため、広告宣伝や情報発信、国内外からの誘致促進、メディア、旅行エージェント等へのアプローチ、地域の特色を生かした集客イベントへの支援など、地域資源生かすためには、観光客を増やすよりも交流人口を増やすことを重視されている。開湯から約1,300年の歴史を誇る城崎温泉（80軒）も宿泊数や入湯者数が減少傾向にあり、温泉資源を共有し「共存共栄の精神」で駅前のお出迎えや、夏休み期間中、平日、10分間の花火を打ち上げ、お客様にも浴衣を着ながら7つの外湯をめぐるスタイルなど、おもてなしの心で新たな生き残り策を考えられていることに感銘を受けた。

本市にも開湯600年の日奈久温泉があり、共存共栄の精神とおもてなしの心を見習い、生き残り策を考えるべきだ。

ソフト事業 過疎債 城崎温泉 入湯税 1億円

日時：平成26年7月24日（木）

視察先：大阪府大阪市

調査事項：大阪市教育振興基本計画について

<所感>

当市の全国学力状況調査で平均を下回っている学力テストに対し、5点の改革に沿って施策の実施、制度に向けて3年間取り組んでいる。教育委員会では、24区長にも教育サポートとして権限を持たせている。小、中学校における校長を公募し、副校长のモデル設置など補佐体制の充実を図り、市民に学校の情報を提供し、保護者、地域住民が学校運営に協力、参画するため、学校協議会を設置し、毎年市議会に報告する。橋本市長になって教育予算が増額されているなど、教員のやる気を引き出し、学校の活性化を図るために、公募制の導入や教員の希望転任性（F A制）を拡充し、教育人事制度を見直していることに感銘を受けた。

本市の、教育予算も1割を目標とし、教育改革を参考にした
い。 大阪市 小中学校数 418校

生徒数17万人 教員数1万3千人

会派合同管外行政視察所見

幸村香代子

日 時：平成 26 年 7 月 23 日（水）

視 察 先：京都府京丹後市

調査事項：公共交通再生の取り組みについて

【所見】

最近の国を主体とした自治体における公共交通の方向性は、赤字解消の為に路線の整理縮小、地域住民によるコミュニティバスの運行、路線バスに代わる乗り合いタクシーの導入へと進んでいる。本市も例外では無い。京丹後市でも同じように路線バスの利用者が減少し、事業者への補助金の増加は突出していた。その当時、新市長が誕生し行財政改革が進む中で、当然、この現状を打破するようにと担当部課に激が飛ぶことになる。普通であれば、他の自治体と同じような方向性を考えると思うのだが、ここが違った。「路線バスを地域資源として有効に活用する」「同じ補助をするなら、乗っていただけるバスに補助しよう」というものであった。当然、そう考える論理的、数字的な背景は存在する。しかし、そのどれもが、路線バスを否定するものと真逆の発想である。そのような話を軽妙にされる担当職員の姿勢にとても好感を持った。どのようにすれば市民の利用が進むのか、汗をかきながら地域にでかけてそのニーズを集約されている。バス停の設置、時刻表の作成、料金の設定などが具体化されている。本市で路線バスの見直しと乗り合いタクシーが導入されたとき、市民の中から多くの不満の声が寄せられ、議会報告会でも参加者から切実な声が出された。特に乗り継ぎの不便さと判りにくさは多かった。しかしその事に対する行政の対応は鈍かった。残念なことである。利用者側に立った対応がなされなければ決して利用者が増えることは無い。これから高齢化は進み、ますます公共交通の必要性は高くなつて行く。高齢者や学生、障がい者、通勤者。買物や病院、学校、公共施設、職場。あらゆる人たちがあらゆる場所へ出かけるときに「バスに乗ろう」と思えるような在り方を検討していく必要性を強く感じた。

日 時：平成 26 年 7 月 24 日（木）

視 察 先：兵庫県豊岡市

調査項目：観光資源を生かしたまちづくりについて

【所見】

市の面積はほぼ本市と同じ位で、海、山、温泉などの観光地を持つことなど似たような自治体である。城崎温泉は思いがけないところで注目を浴びていたが、そのようなことは意に介さないといった、淡々とした対応が良かった。豊岡市では 6 つの観光協会を中心とし地域の特性を生かした観光の取り組みが行われている。その観光資源をどのように情報発信するのかに力が入れられている。これは市長の考えであるということであった。国内に止まらず海外までも視野にいれた視点は見習うべきものがある。城崎温泉に限ってみれば、長い歴史を持ち、その歴史に詳しい職員の説明を聞くと「共存・共栄」といった地域のつながりが大切にされながら歴史が作られてきたことが良くわかった。後継者の問題も少ないので、若い

(人たちが「頑張りたい」と思うような環境が整っている。

「環境・観光・経済」は一体化したものであるという考え方には得心がいった。

本市に欠けている視点であると思う。本市も豊富な観光資源を持つがそれをどのように生かしていくのか、また、どのように連携していくのかを考え強化していくことが必要だと思う。

日 時：平成 26 年 7 月 24 日（木）

視 察 先：大阪府大阪市

調査項目：大阪市教育振興基本計画について

【所見】

大阪市の国の動きを先取りしたような教育改革は、マスコミの報道もあり何かと注目を集めている。そのような説明や意見交換ができるかと期待したが、説明者の姿勢に幻滅し、質問に対しても的を外したような回答で不完全燃焼であった。しかし、そこから見えるものもあった。市長に当選したからといって、市民や職員との合意形成を図らないままにやりたいことをやっていくことは決して良い結果は生まれないとということである。それが、子どもたちへの影響となって現れるということにでもなれば本末転倒の話である。現に、公募校長の不祥事が続いている。政治と教育の距離感をどのように図るのか。まだまだ議論が熟しているとは言いがたいと思う。

平成27年3月31日

改革クラブ

代表 亀田 英雄 様

八代市議会改革クラブ行政視察復命書

* 観察期日 平成27年3月24日(火)～26日(木)

* 観察場所 京都市 小水力発電について

【嵐山保勝会】

亀岡市 水耕栽培について

【(株)スプレッド】

京都市 地方創生・地域資源活用提案事業について

【(株)地域歴史活性化研究所】

参加者 亀田 英雄



中山 諭扶哉



堀 徹男



矢本 善彦



幸村 香代子



会派合同管外行政調査所見

改革クラブ 亀田英雄

今回の視察は数名の議員の体調不良により、この時期を選定せざるを得なく、小学校の卒業式を終えてからの出発となり、慌ただしいものとなった。

それでも、視察先は民間ということでこれまでの行政相手とは勝手が違うこともあったが、一定の成果を上げている相手であったこともあり、通り一遍の話ではなく実際体験・経験された話であり、うまくことを運ぶための話であったり、成果を上げるために何をしなければならないか、どうすれば良いかというような話が聞け、充実したものになった。

成功者の話は真実味があるものであり、なるほどということで面白いという言葉で言い表すには不適切であり言葉が足りない気もするが、良い経験であった。これからも取り入れていきたい。以下、それぞれの所見を簡単に述べたい。

◆視察日：平成27年3月25日(水)

◆視察先：京都嵐山保勝会

◆調査項目：小推力発電について

《所感》

ところ変わればいろいろ言い方はあるもので、今回の視察先の保勝会とはいかなるものかわからなかつたが、「景観を守る・保つ会」ということで古い歴史があった。さすが京都である。景観を守っていきながら、地元を守っていこうということで、地域に根差した地域づくりの会でもあると思う。

嵐山は京都でも有数の観光地である。景観はここで述べるまでもなく素晴らしいものであるが、そのことを甘受することなく、自然エネルギーで明かりを点けたら嵐山のPRにもなると工夫を重ねられているところにここでの素晴らしい工夫があった。

行政に頼るでもなく、ここに暮らすものとしていかにここを守り、育てていくか、地域づくりの原点を見たような気がする。

小水力発電は木材の集積地の堰を利用したもので、景観を乱さないものであるし、当然ではあるがそのような配慮のもとで建設がなされていた。常設等であり、消えることがないというのは水力発電ならではのものである。

売電による収入は僅かなものであり、施設をこの費用だけで賄うことはできないものであるが、観光に与えるもの、地域の環境を守ろうとする意識も芽生えてきたとする啓発効果、などなどの相乗効果を考えるとき、費用の数倍の効果があるのではないかと思い、感じた。

八代でも仕掛ける素材・環境は多くあるのではないかと感じたことであった。

そんな中でも案内していただいた方は掃除などの雑用もある中で意識は高く、キーマンとなる人の存在は大事であると思った。

◆視察日：平成27年3月25日(水)

◆視察先：(株)スプレッド(亀岡プラント)

◆調査項目：水耕栽培について

《所感》

素晴らしい施設で驚いた。地元でも有名なことはタクシーの乗務員の反応で分かったが、あれだけの成功を見れば納得である。

それでも担当は元々水耕栽培に否定的であったということで、実験を繰り返す中で成功する

という確信を得ていったということであったが、プラントの建設・ノウハウの確立は素晴らしいものである。

民間の会社ならではのものである。補助金頼みではここまで技術は絶対にできない。

このような成功の中でも、話を伺うなかで、もっと改良の余地があるということで、改めて水耕栽培の可能性を改めて感じた。

契約栽培でも値段は生産者がつけられるのは何と言っても魅力。良いものを作ればこのようになるものかと思った。このような形で農業が出来るのであれば、補助金に頼る・依存することなく産業として成り立つわけであり、これからもっと市場は広がっていくはずであり魅力ある農業ができるのではないか。このことが全てではないかもしれないが、これからの農業を考えるとき、一つの選択肢としては充分なものであり、これからの時代にはあってはいるのかもしれない。

天候に左右されることがないというのは魅力であり、現代の様々な外的環境を考えるとき、安心安全ではないか。

様々な障害・不安・はあるが八代でも是非とも検討して挑戦したいものであると強く思った。

◆視察日：平成27年3月26日(木)

◆視察先：株式会社地域歴史活性化研究所

◆調査項目：地方創生・地域資源活用提案事業について

《所感》

前日の夜に会食頂き、様々な話を聞き、その知識・好奇心・パワーには驚かされた。

地域の歴史を紐解き、学ぶことは地域への愛着につながり、そのことは地域つくりのエネルギーになるものだと感じた。自からうろこであった。

八代市議会 会派 視察報告

中山 諭扶哉

平成 27 年 3 月 25 日 (水)

京都府京都市 嵐山保勝会

調査事項：小水力発電について

平成 7 年度、文化庁の文化政策推進会議の提言により景観保存の機運が高まり、嵐山地域において景観を守ることを目的として「嵐山保勝会」が結成された。2010年から3年間、桂川にかかる渡月橋（155m）に臨時行燈（あんどん）を灯す事業が関電の協力で始まり、好評を博した。これを契機に小水力発電設置の機運が高まり、2004年の総会で設置が採択され、現在に至った。総工費 3,400 万円、2005 年 10 月に稼働した。チェコ製の発電機は非常にシンプルで常時 4kW 発電し、60 基の LED を 1 年中灯火しており、年間稼働率は 330 日、通常余った電力は売電しているということである。

総工費が抑えられたことは、電力会社の協力はもとより、もともと現場に堰が設けられており、設置が容易であったということである。地の利を生かした設備といえる。設置費用や年間維持費（20 万円）を考慮すれば、費用対効果が危惧されるが、この設備を目当てに視察や観光資源となったことや、生涯学習の場として活用できることを考慮すれば、効果は大きいと考える。日奈久地域の街燈では、灯火されていない照明が多い。これは個々を商店の担当としているため、世代交代に対応できること、電気代負担が大きいことが原因であると思う。このような循環型施設を持つことは、観光地では大変重要であり、これから考えていかなければならない。日奈久地域にも太陽光発電施設があるが、地域には還元されていないに等しい。売電が厳しくなる昨今、循環型エネルギーの活用は単に収益を求めるのではなく、未来への目的をもって行なわなければならぬと痛感した。嵐山の小水力発電導入の目的は、間違いなく地域愛にあると感じた。

京都府亀岡市 倉スプレッド 亀岡工場

調査事項：水耕栽培について

水耕栽培の先進企業である倉スプレッドは設立 2006 年ということで若い企業であるが、親企業は青果業界の卸業を行っており、農業ビジネスを担当としている。一貫して自治体や JA などの既存団体に頼らず、自力でマンションの 1 室から始まり、現在の生産システムを確立させたことは称賛に値する。また、現状に満足することなくさらに効率の改善に努めているようである。生産量はレタス日産 21,000 株、42 日で出荷が可能であり、売り上げは 2014 年、7.6 億円ということである。生産の効率化を図れば 35 日での出荷が可能となり、今後の急成長を強く感じた。

特色としては青果の卸業をしていることが、農家の苦手とする販売という弱点をなくしている。作った野菜はすべて売り切ることは大きな強みである。工場で野菜を製造するので、殺虫のための農薬を必要とせず、安全で安心な野菜を提供できる。担当者の「今後は安全でおいしい野菜を大規模かつ安定的に供給できる企業が生き残る」との発言が印象的であった。作れば売れるの意識ではなく、全体的俯瞰的な目をもって消費者ニーズとマーケット規模を見極め、計画を行うことが重要であり、現存団体で実践しているところはまだ少ないと思う。土地と箱モノがあればどこでも進出したいとのことであったので、八代市も是非検討いただきたい。豊かな水があり、雇用も期待できるこのような企業誘致は進んで行う必要があると感じた。

平成 27 年 3 月 26 日（木）

京都府京都市 嵐地域歴史活性化研究所

調査事項：地域創生・地域資源活用提案事業について

昨今、地域創生のキーワードが取りざたされているが、実践に至っては想像がしにくい。このたび、実績のある 2 名の講師にお願いし、事業の概要を教授いただき、意見交換を行った。

地域プランディング講師：鈴木智博氏

フィールドワーク講師：関本徹生氏（京都造形芸術大学教授）

フィールドワークでは、東山地区を案内いただき、町おこしの実践を実感した。東山区は人口 3.9 万人、高齢化率 31.2%、空き家率 20~30% であり、京都市内ではあるが町おこしには興味がない住民が多かったようである。人口流出を防ぎ、町の消滅を防ぐ目的を踏まえ、まずは地域のポテンシャルを発掘することから始まり、事業を効果的かつ効率的に行い、実践していく内容であり、実際に町を巡って新たに発見したものや、外見的知見で地域の人が気付かなかったものをガイドしていただき、日本各地に地域創生の可能性が存在し、活用できていない現状を感じることができた。いずれも 3~5 年の期間を要し、骨太プランを作成することが重要であり、成功まで結びつかないケースも見受けられた。国が支援する地域創生事業について、自治体から何も提案しなければ支援が受けられず、また何をしていいのかわからないのが各自治体の現状であるようである。今回講師としてお願いした方々は、いずれも実績をあげておられるようで、執行部においてはぜひとも一考願い、プランを聞いていただきたい。いずれも民間ならではの発想でより地域に沿った提案が期待できると思う。

改革クラブ 会派合同 管外視察所見

改革クラブ 代表 亀田 英雄 様

議員名【 堀 徹男 】

◆視察日：平成27年3月25日（水）

◆視察先：京都府京都市 「嵐山保勝会」様

◆調査項目：小水力発電について

事業実施の経緯

まず今回御案内頂く「嵐山保勝会」とは、昭和7年に地元の有志により地域資源である「嵐山の景観」の保全を目的として設立された任意団体である。現在の会員は200名程度となっている。この地にある「渡月橋」は1934年に架設されており、照明設備を義務付ける法令施行前の橋であり、1994～2000年の改修の際にも景観を重視したため照明の設置が見送られていた。しかし渡月橋は地域の生活道路橋であることから、交通事故や防犯面を心配した地元の要請を受け「嵐山保勝会」が照明設備の設置申請を行っていたとのことである。またその間、地域の観光イベントとしての照明設置を行う実績があったのもベースとなっている。

取組みの概要と特色

常設灯設置にあたります解決しなければならない課題は一級河川である大堰川に「水力発電装置」という構造物を設置することに対する様々な許認可・合意の形成である。国交省が構造物の設置には理解を示すのは早かったが、水利権、漁業権等が難関だったとのこと。御尽力の末、権利関係の課題がクリアできると、元々堰があったという立地条件がその後の進捗を早めることとなる。

投資額3400万円のうち補助金の受け入れ団体として「合資会社 嵐山保勝会」を設立。その後チエコ製の水力発電装置を購入し設置工事を行った。ちなみに地元自治体の京都市の補助金はパンフレット等の150万円であったということである。照明器具は地元企業による全面支援を受けられたとのこと。大手企業の立地する環境がうらやましいところである。また常設灯は消すことのできないものであり、水力発電が行えない出水時・低水位時は関西電力から供給を受けられるとのこと。また発電により余った電力は売電し月に4万円程度の収入となっている。

取組みの効果

もともと嵐山の知名度もあり、渡月橋という歴史的構造物のライトアップに使うことでPR効果が得られた。TVニュース等で報道されたこともあり、修学旅行生までもが水力発電装置の見学に訪れるそうである。また地元の中学生との河川清掃をとおして環境学習にも効果を上げている。

今後の課題

昨年度の洪水で風評被害のイメージダウンが心配であった。またメンテナンスが心配だが軸受のグリスアップやベルトテンションチェックなどを年1回行えば問題ないとのこと。メーカー・メンテのオーバーホールを20年後に想定しているが、その資金は積立金を準備しているとのこと。大きな課題は想定されていない模様である。さて、今回の視察では民間の事業であり、観光利用が主な目的であったが、本市における小水力発電導入の検討も視野に入れるべきであろう。山間部の小河川や、市内には用水路も豊富に張り巡らされており、町内の防犯灯や自治公民館などの公共施設の電源供給に利用できる可能性を探るべきであろう。目的とアイデアが結びつけば省コストの行政運営が可能ではなかろうか。今後、提案していきたいと考えるテーマである。

- ◆視察日：平成27年3月25日（水）
- ◆視察先：京都府亀岡市 「株式会社スプレッド」様
- ◆調査項目：水耕栽培について

水耕栽培導入の経緯

視察先である「株式会社スプレッド」様はもともと野菜の仲卸業がスタートの会社であり、取引先の農家の声を反映させたものである。特に葉物農家より、「露地栽培では天候により大きく左右され、品質や収穫が安定しない。また相場の変動で価格も安定しない。」などである。これは自社の業態と業績とも一致する。双方向の利益を実現させようとの取組みから始まっている。

事業の概要及び特色

完全人工光型の「植物工場」である。土の香り、気配は一切ない。蛍光灯と水溶液、温湿度とCO₂の管理のみである。子どもの頃に観た未来SF映画のワンシーンで見たものがここにある。21,000株を一日の生産量とし年間770万株を出荷する能力を持っている。この設備に16億円を投資したこと。この企業の特色は販売先、つまり「出口」を持っているところである。もともと青果の仲卸をはじめとする青果のプロ集団であり関西のみならず関東方面まで得意先を持っている。また客先まで運ぶ配送手段も持っており、「生産⇒物流⇒販売」のサイクルが自社グループで完結できている。長年築き上げてきた営業体制が確立しているのが最大の武器ということにある。試行段階で長らく赤字経営が続いていたが黒字に転換し利益を上げられるようになったことである。また、同様の水耕栽培「植物工場」は全国に165社程度あるが採算が取れているのは5社程度で企業として成り立っているのは数少ない。補助金を当てにした事業体では経営を軌道にのせるのは難しいようである。

事業の効果

交替制のパート従業員も含めると工場だけで200名の雇用を生んでいる。いかに農業の集積・大規模経営化を進めたとしてもここまで雇用は生み出せまい。さらに配送や販売の人員も含め地域の雇用創出に貢献している。また「植物工場」での生産は計画的に収穫でき安定した供給が可能となった。安定した生産供給は価格の安定も生み出し、経営の安定化につながっている。

今後の課題

水耕栽培及び商業化へは一応の成功みたが水耕栽培自体はまだ発展途上の技術である。今後も自社開発に力を入れノウハウを蓄積していく。これが最大の強みである。こういうやる気のある民間企業だからこそ、できた・できる事業であると思う。補助金頼りの事業では責任ある結果は生まれない。また毎日21,000株の生産供給では自社の取引先すべてに提供できていないこと。レタスは1,548億円の国内マーケットがあり、また自社の持つ売り先（西友など大手マーケット）に安定供給するため、「植物工場」のフランチャイズ化を考えている。賃貸で工場運営も可とのこと。ただし、『製品品質と供給の安定化が第一』であり、消費者等に責任を持つために建物から照明などノウハウを提供する代わりにフランチャイザーには厳格に守ってもらうこと。今回視察の目的に、本市の中山間地の未利用施設等を水耕栽培の施設に利用できないか？という観点を以っていた。しかしこのような成功事例の企業には相当なノウハウの蓄積とそれに伴う投資がなされているのであってこそその成功であろう。補助金頼みでの取組みには注意すべきであると思う。今後海外展開も検討されており、「植物工場」のノウハウが広く普及することを期待するところである。

◆視察日：平成27年3月26日（木）

◆視察先：京都府京都市 「株式会社 地域歴史活性化研究所」様

◆調査項目：地方創生・地域資源活用提案事業について

取組みの経緯・概要及び特色 その効果 今後の課題について

京都市東山区の現地フィールドワークから導入。京都造形芸術大学教授 関本徹生氏の案内により、地域の観光資源の発見・発掘のポイントを探る着眼点についてレクチャーを受ける。おおよそ一時間のまち歩きでさまざまな観光資源となった場所の紹介がある。土に埋もれて発掘された登り窓跡や車も入らない路地奥の住居、それを改装して学生住宅にしてしまう（定住化促進の見本みたいなもの）発想や「鐘馗」さまを既存の神社の一角に祭神として祀り地域の新たな祭りとしての取組みなど。わずか3キロ四方の街の中でこれでもか？というほど観光資源の開拓発掘がなされていた。（もともと、素地のある街柄なのだろうが）地元の人間にとっては当たり前の風景・景観、空気みたいなものであっても、他所の人間に見てみれば（ちなみに関本先生は和歌山県出身）新鮮な発見につながるようである。肝心なのは一過性の「お遊び」ではなく、「マジメに遊ぶ」空気感であり“まちづくり”につなげるキーワードを発見し、コンテンツを創りだし、テーマを設定して、キーマンを創出し（出現するらしい）地元の人々と協働し、そして盛り上がる！ことが事業、イベント、祭り、として永く続けられるポイントだとの話があった。（これが、このプロセスが難しいのだが）ここでも行政主導の形態は感じられず民間の（大学の）主体性があると思える。

地域・地元の元気復活、振興はつまるところ「子どもたちに伝える」ことであり、地域愛・地元愛の涵養こそが「地域活性化・地方創生」だと説いていたようであった。本市においても京都とくらべるのもいささか恐縮であるが、歴史的価値のある遺構遺物の存在は未開拓のものも含め遜色がないように思っている。どう発見し開拓し地域資源として文化観光や教育資源につなげていくか？「地域の祭りがあるから、地元の祭りが楽しみだから」ここに住み続ける大きな理由となれば定住化にも結びつくのではないかと考えた。さて国の方針はお金をくれるところにある。平成27年4月から28年3月までにプランを作成しなければならない。それ以降は国からも置いていかれるとのこと。業者にプランを委ねるか？本市が自力で計画をたてるのか？我々議員みなにかしら提案をするべきと思うが、まず「まち・ひと・しごとの創生」プランが真にどのようなものであるか見極めなくてはならないだろう。じっくり腰を据えて研究・検証・検討するべきであろうが、1年の間でできるが甚だ疑問である。つまるところコンサル会社任せの計画に終わるのであれば今までの施策となんら変わらないものであるように思えるのだが。本議員としては自分でできる範囲で地道な開拓を続け少しずつ広がりができ、永く息の続く「地域づくり・地方創生」に努めてまいりたい。

会派合同管外行政調査所見

改革クラブ 矢本善彦

◆視察日：平成27年3月25日(水)

◆視察先：京都府京都市

◆調査項目：小水力発電について

《所感》

嵐山にある小水力発電（嵐山保勝会）の事務所で担当理事の吉田憲司氏より設置経緯と現状及び今後課題について説明と意見交換をさせて頂きました。

嵐山保勝会とは昭和7年に地元の有志により地域資源である、嵐山の観光景勝地の維持、観光地としての魅力向上、イベントや清掃活動を行っている任意団体である。

(会員数200名)

この小水力発電は、嵐山保勝会が「渡月橋に夜間照明がほしい」と京都議定書(1997年)をスタートした京都で、環境にやさしい小水力発電を3年がかりで取り組まれている。渡月橋から少し上流にある堰の1.7メートルの落差を利用したサイフォン式発電機はチエコ製で設置費用の総事業費 3,400万円(照明設備除く)、設置の際にNEDO(独立行政法人)から事業費の3% (730万円) 補助金と市内企業からの寄付金、会員の資金で賄っている。

ちなみに京都市からの補助金 150万円 電光掲示板 パンフレット等

現在、この発電で夜間照明を賄い(必要電力は約2kw)余りの電力を関西電力に売電し、(月額4万円)の収入があり維持管理等に充てている。(売電単価1kwあたり8円)デメリットとしては取水口のゴミ問題だ、通常朝夕2回の巡回点検、嵐山保勝会メンバーで実施し、地元の中学生による河川清掃活動を通して環境学習にも効果を上げている。

桂川(一級河川)の流れを利用した小水力発電による自然エネルギーを利用し、渡月橋を生活道路として渡たる人々の足元を照らすだけでなく、地球温暖化防止の道しるべとして明るい光を灯していることに感銘を受けました。

(1基10万円、LED照明60基 水量4kw 消費1kw)

市民事業者による、国交省管轄の1級河川(桂川)に小水力発電設備を設置された、日本で初めてのケースとしてミャンマーのウンサンスー女史も視察に来ている。国内でも、再生可能エネルギー問題で環境団体の視察が多くなって来たそうです。

本市も、再生エネルギーについては、太陽光発電の普及に取り組んでいるが、水力発電については、球磨川(1級河川)遙拝堰や氷川水系の水位差を有効に利用した発電を計画し参考にしたい。

今回、お忙しい中ボランティアで私たちの視察に対応して頂きました、吉田憲司様に感謝申し上げます。

- ◆視察日：平成27年3月25日(水)
- ◆視察先：京都府亀岡市 (株)スプレッド (亀岡プラント)
- ◆調査項目：水耕栽培について

《所感》

農薬を全く使わず無菌室で蛍光灯、温度、湿度、CO₂のコントロールによってレタスを水耕栽培している。野菜工場とは一体どんなものだろう?、ということで、京都府亀岡市のある「亀岡プラント」に向かい、その実態を見せて頂きました。
平成18年約16億円の設備投資し、株式会社スプレッドを設立している。
これまで、試行段階では長年赤字経営が続いたが黒字に転換し利益を上げられるようになった。

完全人工光型の植物工場である、株式会社スプレッドは青果の仲卸業としてスタートした会社である。

一般的に露地で栽培される野菜は季節や天候にも左右され、品質や安定的に生産を保つことが困難と言われているのが現状である。

スプレッドはこれらの課題を解決するため最先端（環境制御技術、栽培技術等）を用いて太陽光と土に頼らない新たな農業イノベーションを起こすことを目指している。

1階～4階の4フロアに渡って生産され、栽培日数が42日目に出荷される。
すべてを合計すると1日、2万1,000株を生産が出来るようになっており、
安定出荷する供給能力を持っている。（年間730万株）
ちなみに、レタス4種（税込198円）冷蔵庫に入れると10日は持つそうです。

スプレッドの特色は、販売先が充実しているところである。
仲卸業者としての青果を取り扱っていて、関西のみならず関東方面まで得意先を持ち、顧客先まで運ぶ輸送手段も行っており、
生産、物流、販売のサイクルが自社グループとして営業体制が確立しているところが最大の武器ということにある。

地元雇用についても、交替制のパート50名を含めると工場だけで200名、雇用に貢献している。

日本で一番食べられている野菜がレタスと聞く、需要は確実にある。
スプレッドのレタスは毎日収穫できるので安定供給出来ますし、露地栽培に比べて、食の安全性も高いので、価格でも品質でも勝負が出来ることに感銘を受けました。

本市は、全国でも、屈指の食糧供給生産基地として、トマト、晩白柚、いぐさなど日本一であるが、後継者問題、耕作放棄地など本市の農業の現状である。
今後、产学研官での水耕栽培に参考にしたい。

今回初めて水耕栽培の民間事業の株式会社スプレッドを視察をさせて頂きました。
お忙しい中、対応して頂きました、森定浩士（室長）様、秘書課の森田聖華様には大変お世話になりました。感謝

◆視察日：平成27年3月26日(木)

◆視察先：(株)地域歴史活性化研究所

◆調査項目：地方創生・地域資源活用提案事業について

《所感》

朝から、市電に乗り東山区役所で 鈴木智弘氏（戦国魂 プロデューサー） 関本徹生氏、
(京都造形芸術大学 教授)両氏と合流する。(東山区 人口3万9000人)

関本先生の案内で、六道地域(どくろ町)周辺路地を散策する、(平安時代、五条道路 松原
道路)、この地域は陶器屋でぎやかな街で繁栄していた、(昔は煙突50基の登り窯工場)
があり、戦時中には、鉄の代用として手榴弾を陶器で製造工場だった。

神社仏閣が多く、高齢化で(高齢化率31.2%)、空き家が多く(20%)、

京都でも職人さんが多かった東山区は空き家となっていた職人長屋を借り、学生さんが入居、
アトリエ等して活用し、若者が地域の中に入ることで、後継者が減り衰退しつつある職人の街に、
活気を取り戻す狙いもあり定住促進に貢献されている。

まち歩きから知る、3キロ周辺の街の中で、土に埋もれて発掘された登り窯跡など、歴史的と
しての近代産業遺跡等の調査が行われていないのが現状である。

本市も、歴史や文化財の宝庫であり、八代妙見祭の神幸行事や八代城跡群遺跡が
国の無形文化財登録されている。

また、国の選択として、久連子古代踊り、植柳の盆踊り、八代、芦北の七夕綱
この機会に、古き昔の歴史を振り返り、懐かしみ、自分たちの住む郷土の歴史、
文化をもっと良く知って継承して行きたいと思いました。

今回、初めて民間事業を視察させて頂いたことで大変参考になりました。

お忙しい中対応して頂きました、鈴木智弘、関本徹生両氏には大変お世話になりました。

平成27年3月15日 現在 文化課 山崎さんより

八代市指定文化財 239件

国登録文化財 5件

久連子古代踊り、植柳の盆踊り、八代、芦北の七夕綱

国指定文化財 11件 県指定文化財 27件 市指定文化財 196件

【管外行政視察報告書】

改革クラブ 幸村香代子

1、 調査項目

- (1) 嵐山保勝会：小水力発電について（京都市）
- (2) 株式会社スプレッド（亀岡プラント）：水耕栽培について（京都市）
- (3) 株式会社地域歴史活性化研究所：地方創生・地域資源活性化提案事業について（京都市）

2、 視察報告

- (1) 嵐山保勝会：小水力発電について（京都市）

① 視察目的

再生エネルギーの普及が進む中で、八代市は太陽光発電の普及は目標数値を超えるほどに進んでいるが、他の素材については遅れている。地域的に地熱や風力は適さないこともあるが、水力は積極的な取り組みが計れると思う。また、大規模的な施設ではなく、地域に必要な電力といった小規模発電でコストも低く抑える方策もあると思い、今回の視察に臨んだ。

② 事業実施の経緯

- ・嵐山の大堰川に架かる渡月橋（1934年架設）は100メートルを越える橋で、1997年に照明設備の設置が義務付けられた。しかし、観光地であり、景観の重視のために設置が見送られてきた。一方では、渡月橋が生活橋でもあり、交通事故や防犯面を心配する地元の声もあがっていた。
- ・2010年に橋に行灯40個を設置し、もみじの時期1ヶ月間点灯した、3年間事業を行い好評であった。これを年間通して行えないかということで、京都市に陳情した。
- ・しかし、京都市が動くことが無く、それならば保勝会で作って、京都市に寄付をしようと考えた。2013年
- ・その時、灯りをつける電力をどうするかということを考え、水力発電に眼をつけた。水力発電を行うことが目的ではなく、灯りをつけるために手段である。
- ・京都市とは覚書を交わしている。
- ・事業にあたっては、河川が桂川の一級河川であることで、国交省や土地改良区との協議が必要であった。発電水利権取得の問題などは国、土地改良区所有の堰に設備を設置することには土地改良区。協力と理解によって、許可と同意が得られた。一級河川の河川区域内に、小水力発電設備を設置する国内初のケースとなる。

- ・林業が最盛期の頃、貯木場があり、木材を流す堰があった。この堰を利用している。

③ 取り組みの概要及び特色

- ・水力発電が目的ではなく、街灯を灯すための手段としての水力発電。
- ・小落差式の発電で、メーカーはチェコ製
- ・事業費 3400 万円・・・国庫補助 3 割
- ・京都市の予算は 150 万円・・・パンフレット作成や掲示板
- ・2015 年から稼動。1 KW、21 円 50 銭で関西電力に売却。
- ・4 KW/h 発電。
- ・年間 300 日 × 24 h 稼動。80% の稼働率
- ・4 万円/月で 50 万/年の収入になる。
- ・LED を使用しているので、1 日 1 kW しか使わない。
- ・夕方 5 時から 12 時までは観光用。フットライトは生活用で常設灯となっている。

④ 取り組みの効果

- ・多くの自治体や議員団、市民団体、海外、修学旅行生などの視察がある。
- ・新しいエネルギーとして関心を持ってもらえるようになってきた。
- ・水力発電は安定して電力供給ができる。
- ・若い人たちが河川の清掃作業に出てくることが多くなった。中学生の河川清掃も行われており、川の現状を伝える機会になっている。

⑤ 今後の課題

- ・排水口にゴミが溜まる。

⑥ 所感

- ・平成 17 年 2 月 16 日に京都議定書が発効した。地球温暖化の問題に世界各国が目標数値を掲げて取り組みを進めることを表明した。また、福島原発事故を受けて、自然再生エネルギーの取り組みは加速している。エネルギーの自給はこれから取り組まなければならない課題となってくる。大規模な設備投資を必要とする事業は難しいが、用水路や小河川を活用しての発電の可能性、小落差でも可という今回の視察は参考になった。もっと多くの施設や事業を研修したい。

(2) ニーズスプレッド（亀岡プラント）：水耕栽培について（京都市）

① 観察の目的

- ・自然相手の農業は、天候に左右されやすく安定的な収入が得られにくい現状がある。また、近年、放射能の問題やPM2.5など大気汚染の問題もあり、安全、安心な農作物の生産が求められている。水耕栽培は安定供給が可能で、計画的な栽培と安定的な価格、外気に触れないことで安全な栽培も可能となる。いろいろな水耕栽培があるので、期待を持って臨んだ。

② 水耕栽培導入の経緯

- ・ニーズスプレッドはトレードグループの傘下であり、トレードグループは青果の生産から物流、広告、販売、流通の事業を展開している、青果ビジネスモデルであり、野菜の総合商社を目指している。その中でスプレッドは「農業ビジネス」を担っている。

③ 事業の概要及び特色

- ・2006年1月に設立。従業員120名
- ・2014年3月売上高7億6千万円。今年採算がとれた。
- ・生産能力は21,000株／日 770万株／年。レタスの栽培
- ・蛍光灯による多段式水耕栽培方式
- ・地下水を利用して循環型の灌液式養液栽培方式を採用
- ・22度から23度に室温を保つ
- ・コストの1／3が電気代

※黒字になったのは？

- ・営業力がある。21,000株を売り切る。取引先は200社
- ・栽培、開発技術力がある。21,000株、栽培することができる。
- ・グループ力がある。

④ 今後の課題

- ・水耕栽培に取り組む会社が増えている（165社）利益をだしている会社は少ない。倒産や撤退も多い。小規模で販路も限定された事業形態では難しい。
- ・消費者のニーズに合わせた商品提供。国内だけではなく、海外も安定的な需要が見込める。まだ、消費者ニーズに合致した商品を提供されていないことで、成長余地は大きい。まだ手付かずの状態である。
- ・水耕栽培はこれから伸びる技術である。

⑤ 所感

- ・いろいろな形態の水耕栽培がある。今回の観察先は近代的な施設で、徹底した品質管理が行われていた。水耕栽培で利益を得るには、販路の確保が一番の

課題であり、規模も中途半端では採算性がとれないということも理解できた。しかし、これから技術としては充分に将来性があることもわかった。水耕栽培の現状と今後を理解できた視察であった。

(3) 嫌地域歴史活性化研究所：地方創生・地域資源活性化提案事業について

① 視察の目的

- ・地方創生と地域振興はこれからの地域の大きなテーマとなる。このことを研修することにした。

② 所感

- ・地域振興や再生は「地域資源の活用」がキーワードで、埋もれた資源を掘り起こす作業が必要になる。また、それを担う人の育成が重要である。
- ・何が我が地域の資源なのかを、外部の力を借りて掘り起こすことも方策のひとつであり、その場合、地域住民がどのように関わっていくかがキーワードになる。
- ・本市には高専や短大があり、多くの事業所もある。これまでも、日奈久の再生などに、産学官で取り組んだこともあるが、その成果が見えにくかった反省がある。
- ・今回の研修は、地方創生の「基本計画策定」を事業としている組織であったが、そもそも地域資源の考え方やかかわり方を研修する機会となった。

平成26年度「会派合同議会報告会」のまとめ

平成22年4月から取り組みを開始した「会派合同議会報告会」も平成26年度で丸5年となつた。26年度はこれまでの開催場所を洗い出し、開催期間が開いた校区での開催と、これまで太田郷校区にまとめていた宮地、龍峯校区での開催、さらに初めての試みとして本町アーケード内での開催に取り組んだ。市民により身近な場所で開催することは、参加の機会を確保するという観点からも必要なことであると考える。今後も、細やかな開催場所の設定を考えたい。また、議会報告会で出された意見、要望については、積極的にメンバーによる学習会の開催や調査を行うとともに、一般質問で取り上げるなど議会活動に反映させてきた。以下、今年度の取り組みをまとめる。

1、参加会派・議員名

- ・改革クラブ： 亀田英雄 矢本善彦 幸村香代子 堀徹男 中山諭扶哉
- ・連合市民クラブ： 野崎伸也 大倉裕一 島田一巳
- ・日本共産党： 笹本サエ子

2、開催日時・会場・参加人数

開催日	会 場	開始時間	参加人数
①4月7日(月)	やつしろハーモニーホール	13時30分	8
		19時	9
②4月15日(火)	鏡文化センター	13時30分	5
③4月17日(木)	千丁公民館	13時30分	11
④7月8日(火)	やつしろハーモニーホール	13時30分	18
		19時	13
⑤7月10日(木)	八代公民館	台風の為中止	—
⑥7月11日(金)	八福笑店街	14時	3
⑦10月15日(水)	八代公民館	19時	10
⑧10月20日(月)	やつしろハーモニーホール	14時	10
		19時	32
⑨1月26日(月)	やつしろハーモニーホール	13時30分	合わせて
		19時	32
⑩2月2日(月)	宮地公民館	19時	9
⑪2月9日(月)	龍峯公民館	19時	8

*やつしろハーモニーホールでの開催時（昼の部13時30分）には、毎回、手話通訳をお願いしている。

*八福笑店街は、開催時間の設定に問題があった。参加された方から指摘を受けて反省。対象地域が狭くなれば、丁寧なリサーチをして、参加しやすい月日や時間の設定を考える必要がある。

3、開催までの準備

①定例議会開会日に会議

開催日・開催場所の決定



②定例議会閉会日に会議

役割分担の決定、報告のポイント、スケジュールの確認

↓・報告の資料作り（4常任委員会と全体概要）

↓・チラシづくり・印刷・チラシまき

ハーモニーホール 2000枚

各会場ごと 2000枚

③リハーサル1回目

全員で点検し内容の確認・修正



④リハーサル2回目

資料の最終確認

当日の最終確認

↓・当日配布資料・アンケートの準備

⑤議会報告会

↓・会場設営

・当日の運営

・後片付け

↓・アンケートのまとめ

↓・当日の報告書の作成（質疑応答含む）

⑥報告会終了後日に会議

報告会の反省会

・報告会で出された内容を精査し、学習会の開催や一般質問で取り上げるか
などを検討し、担当を決める。

*一連の流れはこのように進む。各個人の活動もある中で、「議会報告会」の必要性が強く
共有化されていることが、この取り組みが継続できている大きな要因である。

4、今後に向けて

今年度の課題を整理しながら、引き続き「会派合同議会報告会」に取り組んでいく。ここ数年、議会や議員の存在意義が問われているが、議会報告会で市民と直接向き合って意見の交換を行うことは、相互の理解を深める大切な機会であると考えている。

毎回どんな質問があり、意見をいただくか緊張するが、だからこそ、日頃の自己研鑽が必要となっている。9人が切磋琢磨しながら今後も市民の負託に応えられるよう努力を重ねていきたい。

また、報告会の開催を楽しみにして固定した参加者が出来てきたことはうれしいことではあるが、全体として少ないことは残念なことであり、参加者が増えるようなやり方の検討も必要であると考えている。

テーマを設定しての意見交換会、条例提案なども取り組みたいものであり、議会報告会から更にレベルアップするような取り組みも検討したい。

参加者から、議会全体での議会報告会を期待する声が届けられるが、その必要性の共通認識が図っていない八代市議会の現状では残念ながら難しく、これまで幾度となく私たちから呼びかけてきたことでもあり、これから先は議長の見識によるものと考えている。